

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

October
ISSUE



October, 2026
Volume 171

入学試験と募集活動

2027 年度にお迎えする新 1 年生児童の入学試験が終了しました。本校では教頭が募集活動と入学試験運営の役割を担っており、入学試験はいわば昨秋からの 1 年間の「集大成」と言えます。

募集活動は前年度の入試が終わった秋ごろからスタートします。今回は京都府・大阪府・奈良県内にある約 20 もの幼稚園、保育園、幼児教室を訪問し、学校説明会や教育講演会を開催させていただきました。本校の児童募集のためにお時間と場所を提供していただきましたご関係者様に深く御礼申し上げます。

学校説明会（教育講演会）では、同志社の教育理念（キリスト教主義、国際主義、自由主義）や DIA の特色（バイリンガル教育、IB 教育、一条校としての教育）、主な学校行事、児童の様子や校内の雰囲気、卒業後の進路など、様々な視点から具体的かつ入学後のお子様の姿がイメージできるようにするだけでなく、ご入学後に安心感をもってスタートできるよう子どもたちが学校生活を行っていく上で必要な心構え、保護者様のサポートについてもできるだけ丁寧にお伝えさせていただきました。

本校は、英語の経験のないお子様も入学でき、卒業時には CFER（ヨーロッパ言語共通参照枠）で B1 レベルを目標とする学校です。日本の代表的な英語テストである実用英語技能検定（英検）の 2 級（高校卒業程度）から準 1 級（大学中級程度）に相当する語学力です※1。日常会話はもちろん、日本の小学校で学ぶ算数や理科、社会、体育、図工、音楽といった教科を日本語と英語で習得します。ただし DIA に入学して 6 年間学校生活を送っただけでは B1 レベルの英語力は身に付きません。日々学校での学習や家庭学習にまじめに取り組んだ先に、目標の達成があると考えています。

また本校では学習指導要領の内容に加えて 1 年生からの英語、算数や UOI (Unit of Inquiry, 探究の単元) を英語と日本語の両方で行うため週当たりの授業時間数が多く、宿題も公立

学校と比較すると少し多く感じるかもしれません。

授業時間数だけを見ると確かに多いのですが、大切なのはその中身です。UOI の学習では学習指導要領の内容を押さえずとも、自ら問いを立ててそれを解決していく、最後にプレゼンテーションをするという形態の授業がかなりの割合でありますから「学ぶことが楽しい」と感じる児童が多いでしょう。実際学校の雰囲気はとても明るく、本校の児童も毎日元気に楽しく通ってくれています。

最近、海外からの編入学※2 ご希望の方からのお問い合わせが増えています。現在海外にお住まいでそろそろ日本へ転勤予定、という方から関心をもっていただき、大変ありがたい限りです。そのような方に対しては、一時帰国される際に校内の見学が可能となっております。

私自身、これまでに国立・公立・私立と様々な小学校に勤務させていただき、DIA で 6 校目となります。とりわけ DIA の学校文化は、日本と海外の文化が共存していると感じます。ファッションが自由、チャイムが鳴らない、ディスカッションの授業が多いだけではありません（それだけでも海外の文化として大きいと思いますが）。そのような面で、海外在住のお子様にとっても DIA は通いやすい環境なのではないかと思います。

教頭の仕事のひとつとして、一人でも多くの方に DIA の魅力をお伝えするとともに、学校についてしっかりご理解いただいた上でご入学いただき、「通わせてよかった」と思っていただけのように、努めてまいりたいと思います。

教頭 風間 寛

※1 英検の級と CFER レベルとの関係の詳細は、日本英語検定協会ホームページ (<https://www.eiken.or.jp/cse/>) をご覧ください。

※2 編転入学 日本国内の国公立の小学校（いわゆる「一条校」）からの入学を「転入学」、それ以外の学校（日本人学校や海外の現地校など）からの入学を「編入学」と言います。本校では編転入学試験を年 2 回（6 月および 2 月）に実施しています。（ただし欠員のある学年に限りです。）



キリスト教教育

10月：誠実 October: Honesty/Integrity

聖書：「神は我らの逃れ場、我らの力。苦難の時の傍らの助け。」

詩編 46 章 2 節（聖書協会共同訳）

今夏 7 月 28 日以降に起きた国内外の自然災害を、思いつくまま列挙してみました。

- ・ 2026 年熊本地震
- ・ 千葉豪雨
- ・ 北陸各地の記録的大雨
- ・ 台風 24 号と秋雨前線による各地の記録的大雨
- ・ コロンビア地震
- ・ ネパール・中国土石流
- ・ 欧州各地の熱波、森林火災

これ以外にも、書き洩らした地域がたくさんあるかも知れません。

「自然災害」とは言っても、昨今の異常気象は地球温暖化が原因であると言われて久しいので、厳密に言えば「人災」ということになるのでしょうか。誰か一人か二人だけの責任ではなく、長年の間、場当たりのな快楽を追求してきた人類全体の責任です。この辺りで皆が本気になって何とか協力しないと、既に地球沸騰化しつつあるこの世界が完全に住めない死の星となり果ててしまうのも時間の問題かも知れず、決して SF の世界で終わらせる話ではありません。狭い星の上で争っている場合ではないのです。

例年、5 年生の Unit3 では環境問題が取り上げられるため、Religion の授業でも旧約聖書の「洪水」物語（ノアの箱舟）を学んでいます。箱舟の話は大きな舟の建造や、動物がたくさん登場するなど視覚的に捉えやすく、今まで数多くの絵本にもなってきました。春学期に新 1 年生が動物園へ校外学習をしに行く際に、必ず一度は読み聞かせをする物語でもあります。

この幼稚園児でも知っていそうな有名な物語をもう一度高学年の 5 年生に学び直す理由は、一見神話やお伽噺に思えるこのお話の中に、今も昔も変わらない人間の性や人類の真実、それに伴う他の被造物の運命が描かれており、その内容が現代に生きる我々の問題を見極めるのに、非常に重要で役に立つと思われるからです。

つまりこの物語を通じて、環境破壊や核兵器による殺戮といった人間の罪業の結果が「洪水」や「生態系の破壊」等の形で自分自身に跳ね返り、そればかりではなく何の罪もない周りの植物や動物にまで被害が及んでいくことを認識し、聖書の物語が単なる過去のお伽噺ではなく、今日においても生きた意味を持ち、この世界は一人一人の人間の生き方に左右される、ということを理解するのがねらいです。

Christian Education Committee チャプレン 石川眞弓



<お知らせ>

10 月 13 日（火）おにぎり献金

- 国内：岩手キリスト教学園認定こども園宮古ひかり、福島県の若松聖愛幼稚園、熊本県の慈恵病院「こうのとりのゆりかご」、北陸学院キリスト教センター（石川県能登半島地震支援金口）・熊本 YMCA（2026 年熊本地震救援・復興支援募金）
- 海外：日本ユニセフ協会「人道危機緊急募金」

ご賛同頂ける方は、お子様に献金をお持たせくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

G2 校外学習を通した学び ～Unit 1 & 2～

本校では、実際に社会や自然に触れながら学習することを大切にしています。本号では、2年生が実際の社会や自然と出会うことで、子ども達の学びが広がったUnit 1,2で実施した校外学習について紹介します。

Unit 1のセントラルアイデアは、「人々は、社会で異なる役割と責任を果たす。」でした。まずは学校内で、副校長、事務員、清掃員の方々を教室に招き、それぞれの仕事の説明を聞いた後、子ども達は興味を持ったことを質問しました。「副校長先生は授業をしていないけど、楽しいですか?」「学校に来た人が最初に事務室に行くのはなぜですか?」「掃除をしていて、嬉しいことは何ですか?」最初は素朴なものが多かったのですが、「どのような仕事をしているのか」というFunction、「社会の中でどのような責任を果たしているのか」というResponsibility、そして「誰のために、あるいは誰と協力して仕事をしているのか」というConnectionという3つのKey Conceptsに沿った質問を考えだしました。この経験は、校外学習のための練習にもなり、実際に仕事をしている人に話を聞く時の質問や相手の話の聞き方など、教室でのインタビューを通して、子ども達は少しずつ「質問する力」「聞く力」を身に付けていきました。

そして、社会へ出かけ、近鉄、奈良交通バス、銀行、花屋、ケーキ屋、郵便局で働く方々にインタビューをしました。お店や駅では教室とは違った緊張感があり、最初は用意してきた質問を読むだけで精一杯だった子どもも、話を聞いているうちに、「それってどうしてですか?」「じゃあ、〇〇の場合はどうするんですか?」と、その場で新しい質問をどんどんできました。話を聞く中で、「駅員さんは電車が来ていない時も、たくさんの仕事をしているんだ。」と驚く姿や、「バスの運転手さんは、地域の人々の生活を支えているんだ。」という気付きも生まれました。それまで「仕事」と一言でまとめていたものが、一つ一つ具体的なものへと変わり、そこで働く人の工夫や責任、他の人とのつながりを知ることで、自分たちの普段の生活もたくさんの人の仕事によって支えられていることを実感できました。



Unit 2のセントラルアイデアは、「生き物は、環境に合わせて、変化する。」でした。導入として、さくらんぼ農園と琵琶湖博物館を訪問しました。さくらんぼ農園では、子ども達は楽しみにしていたさくらんぼ狩りをしました。「こっちの方が大きい!」「さっき食べたものより甘い!」と、目の前のさくらんぼを一つ一つ比べながら、夢中になって食べつつも、たくさんの学びがありました。農園の方から話を聞く中で、さくらんぼは自然に実るだけではなく、天候や気温、害虫など、様々な自然条件の影響を受けており、自然に合わせて人間がさまざまな工夫をしていることを知りました。「こんなにたくさん実をつけるのに、全部自然に任せているわけじゃないんだ。」そんな驚きから、子ども達は「人間も自然の中で生活し、自然と関わりながら暮らしている」という見方を持てました。さくらんぼ狩りという楽しい体験が、自然と人間の営みについて考えるきっかけになったのです。

琵琶湖博物館では、琵琶湖に暮らす様々な生物について学びました。水中の魚や、水辺に暮らす生き物を見ながら、「この魚は何を食べているの?」「この生き物がいなくなったらどうなるの?」と、子ども達の疑問はどんどん広がっていきました。一つの生き物を見て終わるのではなく、「生き物同士の関わりの中にある不思議について考えたり、それに対する予想を広げたりしていました。」

学校の外へ飛び出し、実際の社会や自然と出会いながら、自分で問いを見つけ、自分の力で学びを広げていく子ども達の姿は、とても生き生きとしています。DIAの探究学習を通じて、子ども達が生涯にわたって学び続ける“Learner”としての姿勢を身に付けながら、たくましく成長していくと信じています。



Dear Parents,

Last month, we focused on the resilience required to sort through complex information. This concept from MEXT maps closely to the IB ATL self-management skills (emotional management) and thinking skills (reflection). As we move through October, one of the things we look at more and more is another part of the PYP inquiry cycle: taking action.

In our classrooms, gathering facts is only part of the process. True understanding happens when students decide what to do with their new knowledge. "Action" in the PYP isn't just about saving the world or building a huge project. Most of the time, it's pretty ordinary and personal. It's a student deciding to change their routine, teaching a brother or sister something new they just learned, or using a classroom idea to work through a problem outside at break time.

This shift from learning *about* something to acting *upon* it is what makes education meaningful and relevant.

Getting students to see that their learning has value outside the classroom is important. A simple question at home like, *"How can you use what you learned today?"* or *"Will you do anything differently now?"* might be a good way to help students understand this. It shows them that what happens in school actually matters outside of it.

Chris Elsdon, PYP Coordinator

保護者の皆様

先月は、複雑な情報を整理する際に求められるレジリエンス（困難を乗り越える力）に焦点を当てました。文部科学省が重視するこの概念は、IBのATLスキルである自己管理スキル（感情のコントロール）や思考スキル（振り返り）に密接に関連しています。10月に入り、私たちがさらに目を向けていくことのの一つが、PYPの探究サイクルにおけるもう一つの側面、「アクション（行動を起こすこと）」です。

教室において、事実を集めることはプロセスの一部に過ぎません。真の理解は、児童たちが新しい知識をどう使うかを決めたときに生まれます。PYPにおける「アクション」とは、世界を救うことや巨大なプロジェクトを組み立てることだけではありません。ほとんどの場合、それはごく日常的で個人的なものです。児童が日々のルーティンを変えてみたり、新しく学んだことをきょうだいに教えてあげたり、あるいは教室で得たアイデアを使って休み時間に起きた問題を解決しようとしたりすることなのです。

何かについて「学ぶ」ことから、それに基づいて「行動する」ことへのこのシフトこそが、教育を意味のある、現実に即したものにします。

自分の学びが教室の外でも価値があると児童たちに気づかせることは重要です。ご家庭での「今日学んだことを、どうやって使えるかな?」「それを知って、これから何かやり方を変えてみる?」といったシンプルな問いかけが、児童たちがそのことを理解するための良いきっかけになるかもしれません。そうすることで、学校での学びが、実は学校の外の世界でもしっかり意味を持つということを示すことができるのです。

クリス・エルスドン、PYP コーディネーター



空を見上げると、その高さに季節の移ろいを感じる頃となりました。夏の名残を残していた日差しも、どこか柔らかさをまとい始めています。グラウンドを吹き抜ける風や、夕暮れが訪れる早さにも、秋という季節が静かに歩みを進めていることを感じます。10 月に入り、校内ではさまざまな活動が動き始めています。これからの数か月は、学年ごとに大きな行事が続き、子どもたちにとっても一つ一つの経験が心に残る時期となります。

それぞれの時間が流れている学校

校内を歩いていると、不思議な感覚を覚えることがあります。同じ校舎の中にいながら、学年ごとに異なる時間が流れているように感じるのです。3 年生は、少し先にあるクリスマスページェントへ向けて歩み始めています。今はまだ本格的な練習の入り口かもしれません。しかし、台詞や歌、物語との出会いはすでに始まっています。冬の舞台はまだ遠くにあるようでいて、その準備はもう始まっています。4 年生と 5 年生にとっては、宿泊学習が少しずつ現実味を帯びてくる時期です。いつもとは異なる場所で仲間と過ごす時間は、楽しみであると同時に、不安や緊張も伴います。だからこそ、そこへ向かう準備の過程にも、多くの学びが含まれています。6 年生は 1 月末のエキシビションへ向けた準備を少しずつ始めています。これまで積み重ねてきた学びや探究を、自分自身の言葉で表現し、オーディエンスとの対話を楽しみながら他者へ伝えていく営みです。その意味で、卒業へ向かう歩みの中でも大きな節目の一つと言えるでしょう。

そして学校全体としては、スポーツデイが目前に迫っています。同じ学校の中にありながら、それぞれの学年が異なる未来を見つめている。その姿は一つの大きな川へ、いくつもの小川が流れ込んでいるようです。流れの速さも、その道筋も少しずつ異なります。しかしそれぞれが前へ進みながら、この学校という大きな流れを形づくっています。

私たちはつい行事の本番に目を向けがちです。スポーツデイ当日の競技や演技。宿泊学習での活動。ページェントの舞台。エキシビション当日の発表。どれも子どもたちの輝く姿が見られる大切な瞬間です。しかし教育の営みを考えると、本当に大切なのは本番そのものだけではありません。むしろその前に流れている時間にこそ、多くの学びが息づいているように感じます。思うようにできず、悔しい思いをしたこと。友達と意見が合わず、戸惑ったこと。自分の役割に責任を感じたこと。人前に立つことに緊張したこと。そうした一つ一つは、完成された姿ではありません。けれども自分自身と向き合い、他者と関わりながら、自分なりの答えを探していく大切な時間です。

私たち大人が目にする成果や結果は、積み重ねられた時間のほんの一部分に過ぎません。その見えない時間の中で何を感じ、何に悩み、何を選び取ってきたのか。そこにこそ、その子らしい学びがあります。同じ行事に参加していても、子どもたちが得るものは決して同じではありません。スポーツデイで勝つことに喜びを感じる子もいれば、最後まで諦めずに取り組めたことに達成感を覚える子もいます。友達と協力できたことが心に残る子もいるでしょう。宿泊学習でも、新しい活動への挑戦が印象に残る子もいれば、友達と過ごした夜の会話が忘れられない思い出になる子もいます。一つの出来事に対して、子どもたちはそれぞれ異なる意味を見出しています。

IB 教育では、子どもたちが自ら考え、自ら問いを持ちながら学ぶことを大切にしています。そこには「全員が同じ答えにたどり着くこと」よりも、「一人一人が自分なりの学びを見つけていくこと」を尊重する考え方があります。だからこそ私たち教職員も、「何を学んだか」だけではなく、「その子がどのように学んでいるか」に目を向けたいと考えています。同じ出来事を経験していても、そこから受け取るものは一人一人違います。その違いこそが学びの豊かさであり、学校の豊かさでもあるのだと思います。

誰かを思う力

行事の準備が進むこの時期、もう一つ大切にしたいことがあります。それは自分だけではなく、誰かを思いながら行動することです。スポーツデイの練習でも、宿泊学習の準備でも、子どもたちは多くの人と関わります。自分の思いを伝える場面もあれば、相手の思いを受け止める場面もあります。時には意見がぶつかることもあるでしょう。そのような経験を通して育まれるのは、単なる協調性ではありません。「自分はどうしたいのか」と同時に、「相手はどう感じているのだろう」と考えようとする姿勢です。

実はほそかに学級園でさつまいもを育てています。春に苗を植えてから、暑い夏の日差しを受け、雨に打たれながら、長い時間をかけて育ってきました。普段は土の中にあるため、どれほど変化しているのかは、外から見ただけではよく分かりません。それでも季節が進む中で、少しずつその姿を変えているのでしょうか。子どもたちの学びも同じなのかもしれません。すぐに目に見える結果になるものばかりではありません。今はまだ見えないものが、いつかその子自身の中で意味を持つこともあるでしょう。これからの学校生活でも、うまくいかないことや、思い通りにならないことがあるかもしれませんが、でもその一つ一つの経験が、それぞれの学びにつながっていくと私は信じています。

秋が深まるこれからの時間、子どもたちがどんな経験に出会い、何を感じ、何を見つけていくのか。その時間を楽しみにしています。



テディベアズ・デー

10月27日は「テディベアズ・デー」の日です。アメリカ合衆国26代大統領セオドア・ルーズベルトが狩猟中に弱った子グマを撃つことを拒んだエピソードから、テディ（大統領の愛称）ベアが商品化されました。ルーズベルト大統領が子グマにみせたやさしさ、思いやりについて考えながらいろんな「テディベア」集めてみました。

*お話の紹介文は出版者のHPから抜粋しています。

『もりのくまとテディベア』

詩：谷川俊太郎 絵：和田誠 出版者：金の星社



自然のなかでくらす“もりのくま”と、ぬいぐるみの“テディベア”。それぞれのうえをめぐり過ぎていくのは、異なるそれぞれの時間。生きることとは？そして、幸せとは？谷川俊太郎さんと和田誠さんが、誰もがいくどとなく対峙するこの問いを、真摯にみつめた絵本です。

『オットー 戦火をくぐったテディベア』

トミー・ウンゲラーさく 出版社：評論社



ぼくはオットー。ドイツで作られた、ほんもののテディベア。なかよしの少年デビッドとオスカーと三人で、楽しい日々をすごしていた。ある日、ユダヤ人だったデビッドは、両親と強制収容所に送られてしまう。そして数十年後…。この本は、ぼくたち三人の物語を伝える、ぼくの自伝です。

『小学館版学習まんが人物伝 マルガレーテ・シュタイフ』

監修 佐藤豊彦 まんが かなき詩織 出版者：小学館



世界的に有名なぬいぐるみブランド、シュタイフの創業者、マルガレーテ・シュタイフが主人公です。マルガレーテは、19世紀半ば、ドイツの小さな町ギンゲンに生まれました。1歳半のとき小児まひにかかり、一生を車いすで過ごすことになります。女性や障がいを持つ人が自立するのは難しかった時代に、自分を信じ、努力を重ね、世界で最初のぬいぐるみ会社をつくりました。そして、今も世界中で愛されているクマのぬいぐるみ、テディベアをこの世に送り出したのです。

10月の主な行事・予定

10/24 スポーツデイ 10/27 避難訓練 10/30 ハロウィーン		
1	木	3年参観・衣装合わせ / G3 Open classes Costume fitting
2	金	4年参観 / G4 Open Classes 4年宿泊学習説明会 / G4 Explanatory MTG of overnight trip
3	土	
4	日	
5	月	Unit3(week5) 2年参観 / G2 Open Classes
6	火	6年参観 / G6 Open classes
7	水	1年参観 / G1 Open Classes クラブ活動 / Club activity
8	木	5年参観 / G5 Open Classes 5年宿泊学習説明会 / G5 Explanatory MTG of overnight trip
9	金	
10	土	
11	日	
12	月	スポーツの日 / Sports Day as a national holiday
13	火	Buffer week G1 校外学習 / G1 Excursion
14	水	委員会活動 / Students Committee
15	木	
16	金	
17	土	
18	日	
19	月	
20	火	Unit4(week1) 委員会活動 Students Committee
21	水	PYP プラン(午前授業) / PYP Planning (AM lessons)
22	木	スポーツデイ準備 / Preparation for Sports Day
23	金	
24	土	スポーツデイ / Sports Day
25	日	
26	月	スポーツデイ代休 / Substitute holiday
27	火	Unit4(week2) 避難訓練 / Evacuation drill
28	水	スポーツデイ予備日 Sports Day Reserve Day
29	木	
30	金	収穫感謝礼拝 / Harvest Thanksgiving Service ハロウィーン / Halloween
31	土	

11月の主な行事・予定

11/7(土)	きずな祭 / Kizuna Festival
11/27(金)	点灯式 / Christmas Lightning Ceremony
11/24 ~12/3	学期報告会 / Term-end reporting meeting
11/29(日)	創立記念日 / Doshisha Foundation Day